



発行所 青森県立八戸東高等学校 同窓会松友会 〒031-0001 八戸市類家1-4-47 八戸東高等学校内松友会事務局 電話 0178(43)0262

新たな一歩を 創立120周年を終えて

昨年、母校八戸東高等学校は創立百二十周年を迎えました。周年事業の各実行委員会には、父母と教師の会役員、後援会役員の皆様とともに、同窓会松友会役員も加わり事業の推進に努め協力いたして参りました。しかし、長期に渡るコロナ禍のため、多くの記念事業が、予定通りには実施できませんでした。その中で記念植樹、記念誌の発行、正門の改修など、実施できた諸事業に、同窓会松友会も参画して責務

を果したものは嬉しいこととでして、会員の皆様にも改めて報告するとともに、ご協力に対して心からお礼申し上げます。同窓会松友会が例年行っている活動として、令和4年2月28日の入会式で228名の新しい会員を迎えることができました。今年も2月28日に入会式が行われる予定です。総会と懇親会は毎年6月に開催されてきましたが、残念ながらコロナ禍のため、令和元年に行われて以来開催でき



同窓会会長 茂木典子 (高校18年生)

に重要な事がありまして、『松友』、『松友会誌』という、現在の同窓会の前身の会の会誌を第一号から読み、掲載内容の目録を作成することです。この冊子には欠けている号が幾つかあったのですが、『八戸東高校物語』編

集の際に、著者の島守光雄先生が古書店を巡って探し、寄贈してくださいました。当時、私は母校に勤務し渉外部で同窓会のお手伝いをしておりまして、島守光雄先生から冊子の歴史的価値を伺い、目録を作成したいと

「松友」・「松友会誌」

決意した次第です。しかし、母校勤務の15年間は着手できないまま転動いたしました。今年、学校から許可をいただける時が来たら、全力で取り組む予定であります。『松友』は学校創立の翌年明治35年創立発会

の式を開催、翌年12月25日『松友』第一号が刊行されていきます。『八戸東高校物語』の中で島守光雄先生は「会則を見る限りでは将来の同窓会を念頭にしながらも生徒会を念頭に記した」と記し、『松友』第一

号の次の記事も掲載しています。『明治三五年六月十四日第一回松友会を開く。』

この機会に、同窓会の役割や在り方を、今一度熟考し話し合い、前に進んで参りたいと思います。



整備された校門



創立百二十周年記念誌「繋ぐ」

支部だより

東京支部

支部長 谷内玲子 (高校22年生) 令和元年5月の総会後、東京支部としての活動は思いもよらない制約を受けました。

この機会に、同窓会の役割や在り方を、今一度熟考し話し合い、前に進んで参りたいと思います。

この機会に、同窓会の役割や在り方を、今一度熟考し話し合い、前に進んで参りたいと思います。

活躍する八東生

八戸東高等学校 校長 清川和幸



平素より、茂木典子同窓会会長をはじめ同窓会員の皆様方からは、本校の教育活動に対し深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。学校を取り巻く状況が厳しさを増す中、会員の皆様からの温かい激励やご支援を頂戴しておりますことに感謝いたします。

四月二十三日(土)に開催予定だった春の公開授業とPTA総会が中止となりました。今年度は表現科設置二十周年でした。三年振り

この機会に、同窓会の役割や在り方を、今一度熟考し話し合い、前に進んで参りたいと思います。

この機会に、同窓会の役割や在り方を、今一度熟考し話し合い、前に進んで参りたいと思います。



今号と次号の会報では第6号の記事をアーカイブとして掲載することになりました。タイトルは特別企画・ラジオ同窓会『旧制八高女の思い出』です。1963年6月2日午前10時5分から30分間、RAB青森放送で放送されたものです。三陸はるか沖地震の後、古い録音テープが偶然見つかり、RAB青森放送の許可をいただいた記事に起こし、平成14年の会報に掲載した懐かしい記事です。大先輩方の語る思い出、60年前のラジオ放送を文字でお楽しみ下さい。

一本の古い録音テープが校舎の片隅から見つかりました。三陸はるか沖地震の後片付けがきつかりました。『ラジオ同窓会』旧制八高女の思い出という講話の番組で、一九六三年六月二日(土)午前十時五分から三十分間放送されたものであることが判りました。RAB青森放送の許可をいただいて、文章に起こし、会報に掲載できるとなりました。

39年前、昭和38年の放送を、お楽しみ下さい。

ラジオ同窓会の時間がまわりました。今日は旧制八戸高等学校、八高女の思い出をお送りいたします。県教育委員の美濃部洋子さん、旧姓宗洋子さんは、八高女、昭和九年の卒業生です。みまんデパート社長の三浦萬喜さんは一級上の先輩、県公安委員橋本和吉氏夫人の橋本鶴子さんは六級上の先輩です。当時の恩師は体操の工藤キ先生。大正十三年の八高女時代から昭和二十八年の八戸東高校までの三十年間教鞭をとられました。工藤先生を囲んで、美濃部さん、三浦さん、橋本さんの思い出は、遠く昭和の初期へとさかのぼります。

私は美濃部洋子と申します。ただ今の、青森県立八戸高等学校の前身でございませぬ。当時の青森県立八戸高等学校第十五回の卒業生でございませぬ。昭和五年から昭和九年まででございませぬ。

今日はご先輩の橋本鶴子さんと三浦萬喜さんと集まりまして、当時の私どもの体操の先生でいらっしやいました。工藤キ先生をお招きいたしました。懐かしい昔の思い出話をこれからの思い出話と思っております。

三浦 先生はしばらくでございませぬ。

美濃部 ちっともお変わりございませぬね。

工藤 この頃老いばれてだめなんですね。健康でも、おかげさまで健康です。余生を楽しく暮らしてございませぬ。

美濃部 私どもが女学生だった頃も先生は私どもからすれば、お若くていらっしゃったんですよ。けれども、やっぱりこんなようであらうございませぬ。

三浦 威厳があまりにないのよ、それが、そっくりそのまま残っちゃいますね。本當にお元気で。

橋本 本當です。先生はちっともお太りにも

ならないしお瘦せにもならないし同じでございませぬ。

工藤 いえいえこの頃とっても太りましたんですよ。

橋本 あらそうなんですか。

美濃部 私どもが追いつくんじゃありませんか。美濃部 ジャンパーみたいなものさ。

橋本 先生ちっともお歳をお召しになりませぬね。私たちが同じくらいでございませぬ。

工藤 どういたしまして。美濃部 ほんとにそんな感じがいたします。こうやって久しぶりにお目にかかりますとね、やっぱりお話しは昔の事になるんです。

橋本 そうでした。私お目にかかって

ら九月に転任してきたんですよ。

橋本 そうでございませぬ。

美濃部 そうでいらっしやいませぬ。

工藤 丁度、三田校長先生の時にいらした橋本 あの頃はね、私たちが体操の時は、二階堂の制服と同じあれを取り替えるんですよ。

美濃部 ジャンパーみたいなものさ。

工藤 角襟のですね、上からずうっとヒダだけ美濃部 そうなんですよ。ベルトを外からして。先生があれを着て学校に通いになっていらっしやいましたね。

橋本 私お目にかかって

秋さんすよ、朝体操を着て、あの上から羽織を着て学校に行く、私その頃小学生でしたから、よくお目にかかって。

三浦 ああ、あなたは学校のお近くだったから、そうなんですよ。

橋本 そうですね、二階堂の制服と同じあれを取り替えるんですよ。

美濃部 そうなんですよ。三浦 私たちが初めて入学する時は、その制服で通うことが楽しゅうございませぬ、これを着て行くんだ。

美濃部 橋本さんの奥様の時の写真、ほらこれでございます。ここに(写真を指して)あらほんとにひげが

美濃部 スケートを八戸の女学生に初めてさせようというので東京から持っていらしたとおっしゃるんですか、スケートを。工藤 最初は長野県から、諏訪から持ってきたんです。

美濃部 ああそうでございませぬ。みんなあの当時お上手でしたよ。先生、袴はいて、私も洋服でございましたね。スカートも、よくやりましたね。スカート履いて、黒い靴下履いて。

三浦 あの、かよちゃん、大橋さん、石原さん、奥さん、あの方もスケートで結ばれたんですよ。それから、ちどりさん、磯部先生と一緒にいられた方が磯部さんになったら、ちどりが合う、なんて冷やかしたことがあるんですよ。

工藤 私の頃もやっ

美濃部 今の八戸よりもスケートをする層は少なくなりました。三浦 だって正課だったんですよ。美濃部 全員しなきゃいけなかったんですよ。今でもあの当時ぐらい、子供たちにも中学生とか高校生にはさせたいなと思っております。スケートは高いというかも知れませんが、あの当時だって何かね。

橋本 学校に備え付けられてましたね、先生。工藤 そうなんですよ。橋本 貸しスキーと貸しスケートが。美濃部 それぐらいして、みんながもっとも滑れるように、ここだけのスポーツですものね。

工藤 でも三田先生はね、スケートをさせることには、父兄方から文句が出て大変だったとおっしゃっていました。

美濃部 あら初めはそうでございませぬ。

三浦 この間、上野先生の送別会の時のお話で、昔の第一回生の卒業生の方からお集まりになったんですね。元高女の方からあの時、おっしゃるにはですね、それから実業学校ですか。工藤 実業学校というのはですね、八尋の下に、その学校が廃止になったために女学校に併置したんですね。それで二回出しているんですよ。橋本 そうなんですよ。工藤 出ます。それなら「私は実業です」とおっしゃいますよ。その当時、養蚕をやったんですよ。当直をしたんだそうです。よ、その蚕を養うのに。

工藤 私の頃もやっ

特別企画 ラジオ同窓会 『旧制八高女の思い出』



RAB青森放送 昭和三十八年六月一日放送

じゃございませぬですよ。

工藤 時々クラス会に皆さんに呼んでいただくもんです。余生を楽しく暮らしてございませぬ。美濃部 本当に結構なことで。

三浦 お互いに家庭をもったり、子どもがいたり、仕事ももちろんありますけれども、心に思いながら集まる機会をつくるというのはなかなか、私たちの気持ちで先生にお伝える機会がなくて残念だと話しております。

橋本 先生がいらした時は私たち丁度一年生でございませぬ。

工藤 そうでした。私は宇都宮か

たこともございませぬよ、お若い時。

三浦 先生を拜見したころは着物を着ていらして、学校にいらしてから着替えていらしたようございませぬ。

工藤 宇都宮にいらした時はあんな通っていらしたんですけれども、こちらに参りましたら、知ってる人が多いんです。美濃部 ああそうでございませぬ。

橋本 あなた方は、あれ縫わされませんでしたか。私たちが入るとすぐに縫わされたんですよ、学校で。

美濃部 いいえ、私どもの時はもう普通の体操服でした。

三浦 いわゆる開襟の半そででございませぬ。

美濃部 昔の方がずっと良かったと思っております。美濃部 昔の時は、あれを着るのが憧れで八高女の門をくぐったのに、もうあの体操服が無くなったのかと思うと、実は寂しい思いをしたことが、

美濃部 真田紐ですか、あれにこうやって担いだり下げたりガチャガチャさせてね、長根リノクマでも行きましてした。館越までも行ったんですよ。

三浦 私たちの頃はもう動太郎様はございませぬ。美濃部 そうです、あの頃はありませぬ。

橋本 そうですか、私たちの時は動太郎様まで行きました。

美濃部 とにかく一五〇人が全部滑ったの。工藤 当時の校長先生がとっても熱心だったんですよ。八戸のスケートの三田藤吾先生。

三浦 私たちは三田先生は一年生の時、二年生の時は福士百衛先生。

工藤 三田先生いらっしやいます、ここに(写真を指して)あらほんとにひげが

美濃部 スケートを八戸の女学生に初めてさせようというので東京から持っていらしたとおっしゃるんですか、スケートを。工藤 最初は長野県から、諏訪から持ってきたんです。

美濃部 ああそうでございませぬ。みんなあの当時お上手でしたよ。先生、袴はいて、私も洋服でございましたね。スカートも、よくやりましたね。スカート履いて、黒い靴下履いて。

三浦 あの、かよちゃん、大橋さん、石原さん、奥さん、あの方もスケートで結ばれたんですよ。それから、ちどりさん、磯部先生と一緒にいられた方が磯部さんになったら、ちどりが合う、なんて冷やかしたことがあるんですよ。

工藤 私の頃もやっ

美濃部 今の八戸よりもスケートをする層は少なくなりました。三浦 だって正課だったんですよ。美濃部 全員しなきゃいけなかったんですよ。今でもあの当時ぐらい、子供たちにも中学生とか高校生にはさせたいなと思っております。スケートは高いというかも知れませんが、あの当時だって何かね。

橋本 学校に備え付けられてましたね、先生。工藤 そうなんですよ。橋本 貸しスキーと貸しスケートが。美濃部 それぐらいして、みんながもっとも滑れるように、ここだけのスポーツですものね。

工藤 でも三田先生はね、スケートをさせることには、父兄方から文句が出て大変だったとおっしゃっていました。

美濃部 あら初めはそうでございませぬ。

三浦 この間、上野先生の送別会の時のお話で、昔の第一回生の卒業生の方からお集まりになったんですね。元高女の方からあの時、おっしゃるにはですね、それから実業学校ですか。工藤 実業学校というのはですね、八尋の下に、その学校が廃止になったために女学校に併置したんですね。それで二回出しているんですよ。橋本 そうなんですよ。工藤 出ます。それなら「私は実業です」とおっしゃいますよ。その当時、養蚕をやったんですよ。当直をしたんだそうです。よ、その蚕を養うのに。

工藤 私の頃もやっ

美濃部 今の八戸よりもスケートをする層は少なくなりました。三浦 だって正課だったんですよ。美濃部 全員しなきゃいけなかったんですよ。今でもあの当時ぐらい、子供たちにも中学生とか高校生にはさせたいなと思っております。スケートは高いというかも知れませんが、あの当時だって何かね。

橋本 学校に備え付けられてましたね、先生。工藤 そうなんですよ。橋本 貸しスキーと貸しスケートが。美濃部 それぐらいして、みんながもっとも滑れるように、ここだけのスポーツですものね。

工藤 でも三田先生はね、スケートをさせることには、父兄方から文句が出て大変だったとおっしゃっていました。

美濃部 あら初めはそうでございませぬ。

三浦 この間、上野先生の送別会の時のお話で、昔の第一回生の卒業生の方からお集まりになったんですね。元高女の方からあの時、おっしゃるにはですね、それから実業学校ですか。工藤 実業学校というのはですね、八尋の下に、その学校が廃止になったために女学校に併置したんですね。それで二回出しているんですよ。橋本 そうなんですよ。工藤 出ます。それなら「私は実業です」とおっしゃいますよ。その当時、養蚕をやったんですよ。当直をしたんだそうです。よ、その蚕を養うのに。

工藤 私の頃もやっ

(第27号へ続く)